

忍耐せよ、 「チャンス」はやがて来る

チャンスが来るのを気長に待つということも、
世の中を渡っていくうえでは
必要不可欠なことだ。

▼『論語と算盤』

計画を実行に移して、すぐに理想通りの成果が上がればこれほど嬉しいことはないのですが、現実には何度も試行錯誤を繰り返して、ようやくうまくいくというケースがほとんどです。

渋沢栄一が手がけた事業の中には、日本初のもが多く、最初は赤字続きで長い我慢を強いられたものも少なくありません。日本に民間初の造船所・石川島平野造船所（現・IHI）が誕生したのは1876年のことですが、最初に手がけた軍艦である「鳥海」が竣工したのはそれから10年余り後のことです。

その間、渋沢栄一は銀行を通じて何度

も支援を行ったほか、個人としても資金を提供するなど、まさに産みの苦しみを味わっています。こうした経験を通し、渋沢は「世の中の仕事は力こぶばかりでゆくものではない。堅忍持久の力を養って、次第に進まねばならない」という考えを強くすることになりました。

人が世の中を渡っていくためには、目標に向かって邁進することも不可欠ですが、時に「成り行きを広く眺めつつ、気長にチャンスが来るのを待つ」ことも必要なのです。目的通りに事が運ばないからと焦るのではなく、勇を鼓して忍耐してこそうまくいくこともあるのです。